

西部地区(水産)プロジェクト全体評価及び成果指標の達成状況(平成25年度)

NO	プロジェクト	全体評価(総括・検証)	成果指標と達成率			
			項目名	H25目標	H25実績	達成率
西部-1	大田地区漁業・流通機能の再編整備プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・資源回復計画に基づく漁業者の取り組みが定着するとともに、直巻きリールを導入した小底のモデル漁船の実操業により、小底の漁業者が省人化の効果について実感されている。 ・市場統合による荷(水産物)の一元化や大手量販店を初めとした新規買受人の参入により9月以降の魚価について、改善傾向が見られるが、減船による漁獲量の減少の影響も考えられることから、引き続きデータ収集と長いスパンでの要因の精査を行う必要がある。 ・また、新たな統合市場の開設に向けた衛生管理研修会を行ったが、9月の開設当初は集出荷形態の大幅な変更もあり、当分の間は日々の販売活動を円滑に実施することに終始せざるを得なかった。今後は、衛生管理型市場の適切な運用や管理が可能となるよう、段階的に取り組む必要がある。 ・新たな冷凍技術による業務用商品が開発されつつあり、そのメリットを地域内外にPRすることで、新たな需要の掘り起こしが期待できる。 	小底1ヶ統あたりの水揚金額(漁期年)(百万円)	39	39	100%
			大田地区市場における水産物の平均単価(円/kg)	361	384	106%
西部-2	浜田地域水産業構造改革推進プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・H24年度に船体の大規模改修(リシップ)工事を実施した沖合底びき網漁船1ヶ統が、4月から国の実証事業を開始した。アカムツの資源管理や省コスト操業の導入試験を行ない、リシップ船による効率的操業の確立及び経営改善のための知見が得られた。 ・リシップ工事により、1漁期終了後の船体メンテナンス作業において、修繕費削減の効果が確認された。 ・昨年度から取り組んでいるリシップ船による漁獲物高鮮度化について、1漁期が経過した時点の課題を整理し、次漁期から新たな商品の出荷・販売を開始した。 ・どんちっち三魚について、ブランド力の弱いカレイ類の品質分析等を明らかにする取り組みにより、商品ブランドの根拠となる知見収集が得られた。 ・浜田水産高校で地元水産関連企業における職場実習が行なわれ、生徒が地元水産業に関わる多数の機会が設けられた。 	沖底1ヶ統あたり水揚金額(百万円)	300	278	93%
			水産高校からの地元水産関連企業への就職者数(人)	10	9	90%
西部-3	天然アユが復活する石見の豊かな川づくりプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・漁協が主体となった産卵親魚の保護や産卵環境の整備等、天然遡上アユを増やす取り組みについては、ほぼ定着しつつある。 ・今シーズンは、地場産アユの放流については、計画通り実施されたが、天然遡上が比較的伸び悩んだことや、豪雨災害など河川での増水がアユの漁獲量減少の大きな要因となった。 	地場産種苗の生産尾数(万尾)	350	367	105%
			流下仔魚数(高津川)(億尾)	33	6.6	20%
			流下仔魚数(江の川)(億尾)	10	6.6	66%